



校長室

INFORMATION

ぎおんばら

下野市立祇園小学校
校長室通信
平成29年度
12月号

「走って とんで ねて 食べて 元気いっぱいぎおんの子」

青空の下、持久走大会が行われました！！

12月1日（金）素晴らしい青空の下、応援に来てくださったたくさんの保護者の方々の声援の中、「校内持久走大会」が行われました。

本校では今年度の重点課題として、体力・運動能力の向上に取り組んでいます。持久走は体力の向上に効果的です。それ以外にも練習を通して地道な努力を重ねることの大切さや、全力を出し切って走ることの爽快さと充実感を味わえます。また、持久走が得意な子も苦手な子も、自分の限界に挑戦し、「自分に勝つ」ということを実感できるよい機会でもあります。長距離を走ることは、確かに辛いですが、大半の子は練習自体あまりやりたくないと思っています。でも、それを我慢し、乗り越えることで自ずと結果がついてきます。

本番では、目標を決めて一生懸命練習し、見事目標を達成した児童や、残念ながら目標達成に至らず、悔し泣きしている児童もいました。きっとこれらの児童は、持久走を通して、たくさん大切なことを学び、感じ、そして自分に負けない強い心をちょっとだけ身に付けることが出来たことと思います。悔し泣きした子は、これをばねに次に何か困難があっても、たくましく乗り越えて行くことでしょう。今回も、たくさんの思いが交錯した持久走大会でした。

最後になりますが、走路の安全確保に尽力してくださったPTA役員の皆様、児童のけがやトラブルに対応してくださった、保健室ボランティアの皆様、本当にお世話になりました。おかげで無事、終了することができました。ありがとうございました。



「子ども未来プロジェクト」活動の一環として、小中連携落ち葉清掃を行いました！

11月17日（金）午後、今年度もさわやかな秋晴れの中、全校美化活動（小中連携地域落ち葉清掃大作戦）が行われました。

この取り組みは「子ども未来プロジェクト」活動の一環として、南河内第二中の生徒と祇園小の児童が協力して落ち葉清掃を行うものです。清掃場所は、祇園小から緑小付近まで続く「ゆうがお通り」や「祇園原公園」「ペンギン公園」です。小学生は、1年生から6年生までの縦割り班で行いました。

低学年の児童は、低学年らしく、一生懸命落ち葉を集め、高学年は下学年児童の世話を焼きながら、かがいよく働いていました。その働きぶりは中学生以上でした。中学生もそんな小学生に刺激されたのか、リーダーシップを発揮して作業している姿も見られました。小中学生それぞれが協力し合い、助け合いながら行う有意義な活動でした。これからもこの活動をより充実させて続けていけるといいですね。



よろしくお祈りします！

落ち葉を一杯集めました！！



4年生が日光遠足へ行きました！！

日光東照宮⇒華嚴の滝⇒戦場ヶ原⇒竜頭の滝

11月16日(木)4年生が日光へ遠足に行ってきました。今年の3月10日に、2013年から4年間かけて行われた平成の大改修が終わり、すっかりきれいに修復された陽明門が公開されていました。昨年までは、改修作業中で陽明門は見ることはできませんでしたので、私もとても楽しみでした。わくわくしながらバスに乗り、みんな楽しく過ごしながら東照宮に到着です。改修後の陽明門はとても美しくまさに、別名「日暮門」といわれるのもさもありなんと思えました。その後、いろは坂を登り、迫力ある華嚴の滝を見学しました。昼食後は中禅寺湖クルーズの予定でしたが、予想以上の風のため、残念ながら運行中止となってしまい、急遽戦場ヶ原と竜頭の滝見学に変更しました。でも、みんな日光を満喫したようで、記念撮影した写真には満足したような笑顔がいっぱいでした。



下野市南河内地区一周駅伝競走大会に出場しました！！

12月10日(日)、祇園小学校としては初めて下野市南河内地区一周駅伝競走大会に出場しました。祇園小レッド、祇園小ホワイトの2チームで出場しました。当日まで、放課後や早朝からの練習に音を上げず黙々と取り組んできました。練習するにつれ、どんどん力が付いてくるのがわかり、当日が楽しみになってきました。

大会当日は澄み渡った青空でした。選手達はやや緊張した面持ちでしたが、やる気がみなぎっているのが感じ取れました。開会式が終わり、いよいよそれぞれの場所でたすきを待ちました。私は、スタートとゴールしか実際に見ることは出来ませんでした。それぞれの区間、みんな順調にたすきをつないでいる様子が報告されました。ゴール付近でしばらく応援しながら待っていると、何と祇園小レッドが小学生2位でゴールに飛び込んできました。テープを切るまで全力で走る姿に感動しました。祇園小ホワイトもみんな力で力を合わせ、最後までたすきをつなぎました。ゴールに戻ってきた選手達は、みんな誇らしげな表情でした。みんなで力を合わせることの素晴らしさを感じ取ってくれたようです。お疲れ様でした。



スタート



たすきをつなぎます



ゴール



みんなで記念撮影



ノーベル賞学者益川先生講演会での話から

何年か前になりますが、ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英さんの講演を聴く機会に恵まれました。そこで話された内容で、私自身なるほどなと思ったものをここで紹介します。

※基礎科学を研究している学者は、役に立つと思って研究しているのではなく、研究を地道に継続していく内に発見があり、それが世の中に活かされていく。原理は非常に大切で、原理がわかっているならば、汎用性が出てきていろいろなものに活用できるようになるので、基礎をおろそかにしてはいけません。特に何か新しいものを作るには、始めからやらなければだめである。

※科学者になれる人はどんな人か？ ⇒ 間違いを考えることが出来る人

※教育は、深いところまで学問を究めた人が関わるのが大切。

他にも、エネルギー問題や、地震予知について等たくさんのお話をいただきました。どれも含蓄あることばでした。特に、基礎をおろそかにしてはいけません。ということや、教育には、深いところまで学問を究めた人が関わるのが大切というくだりは、我々教員も、求められるレベルは異なっても、日々勉強していくことが大切だということが心に深く刻まれました。何事も、一つ一つ地道にやっていくことの大切さが改めてわかりました。

